

平成 29 年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（豊岡市分科会）
会議録（要旨）

日 時 平成 29 年 10 月 30 日（月）
豊岡市分科会 10:00～11:30
場 所 豊岡市役所 3 階 庁議室
出席者 豊岡市分科会 6 名中 5 名
欠席者 コウノトリ湿地ネット代表
事務局 豊岡市（政策調整課長、政策調整係主査）

◎協議

分科会長

ここから私の方で進行させていただきます。よろしくお願ひします。事務局から定住自立圏の取組内容の進捗状況について説明をお願いします。

事務局

<説明> 【定住自立圏の取組内容の進捗状況】

（委員）

医療体制の確保について、成果指標が受診者数なのはなぜでしょうか。

事務局

昨年度に総務省の定住自立圏要綱の改正があり、成果指標を各取組みに設定するようになりました。豊岡市では既にビジョンを策定しておりましたので、後付けの成果指標を設定する必要がありました。関係課と調整した結果、受診者数を成果指標とすることとしましたが、実際に医療体制が確保された姿の成果指標としては、馴染まないかも分かりませんが、現時点では、この指標を設定しています。

（委員）

変更することは可能でしょうか。

事務局

可能です。

（委員）

但馬ふるさとづくり協会で都市部の人に移住定住の話をする時に、医療機関がないことは特に心配されます。中高年の方が移住しようとする時に「医療がないと不安だ」と言われます。若い家族も移住する場合は「出産できる医療機関がないと不安だ」と言われます。その時には病院が周辺にどのくらいあるのかを説明しています。また、現在は健康寿命を伸ばそうとしていて、病気にならずに元気な高齢者を増やそうとしているので、必ずしも受診者数は増えてこないと思います。逆に、受診者数は増えないほうが良いということになりますので、この指標は少し相応しくないと思われます。例えば、人口 10 万人あたりの病院数も指標として考えられますが、自治体としてはなかなか病院を増やすことは難しいと思われます。適当な指標が思い浮かびませんが、この指標は目標に対してどうリンクするのかと疑問に思いました。

分科会長

要援護者の登録制度の割合について、現状値がダウンしていると説明がありましたが、私も区長をしていて「この人要援護者じゃないかな」と思う人がいても自治会長から「登録してよ」と声をかけて良いのかどうか迷うことがあります。民生委員さんであれば可能かと思いますが、プライバシーの関係もあって、そこまで自治会長が入り込んで良いのか難しいところがあります。

（委員）

うちの地区でもそういった話があって、災害の時には連れ出さない訳にはいかなないので、年齢とかどのような状態なのか把握したいんですけど、プライバシーの問題で拒否される場合があると聞いています。

分科会長

登録率を上げようと思えば、きちんと申し出てもらうことが必要で、民生委員さんに介入してもらって、より多く登録してもらわないといけないと思います。区長では「大きなお世話だ」と言われかねません。制度創設当初は区長に名簿を渡してもらえませんでした。今でこそ、消防団と民生委員に渡されるようになりましたが、本当に助けないといけないのにプライバシーを理由にされると本当にそれで良いのかと思うこともあります。

(委員)

民生委員からすると、この名簿をもらっても、災害時には民生委員一人ではどうすることもできません。登録してもらうようには言えると思いますが。

(委員)

この数字は民生委員さんが介入しての数字だと思われます。

分科会長

民生委員さんの介入度合いにもよると思います。また、地域によっても大きく違うと思います。高齢化に向かう一方で、登録率が低いので、上げていく手段を考えないといけないと思います。

事務局

情報提供として、登録制度について市の条例に明文化するようにしていて、個人情報取り扱いについても明らかにしていくことにしています。

分科会長

地域公共交通「チクタク」について、現状値が基準値よりもダウンしています。都市整備課が所管されていると思うんですけど、乗車される方は高齢者や障害のある方で福祉の分野だと思います。そこの横の連携が全くなくて、都市整備課は一生懸命しているんですけど、福祉と都市整備の連携でもっと利用者を増やすことができると思います。また、福祉の分野で利用のPRも可能だと思います。ただ、全但バスの路線の関係もあるので、一概に利用者を増やすのが良いのかどうかというところもあります。

他に無いようでしたら次に進みます。共生ビジョンの変更にあたっては、この懇談会が協議・懇談の場となっており、この場での検討を経る必要があります。忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局

<説明> 【共生ビジョンの変更について】

(委員)

Uターン推進事業について、但馬から出て行った若者を戻すために、新卒者の就職説明会を開催されていますが、移住定住の相談会に行きますと、中高年の方や子育て世代の方で年齢が30代、40代の方もいらっちゃって、移住先に就職できる場所がないことがネックとなっています。就職相談会でUターン・Iターンする方を求めているにも関わらず、若者だけを対象として中高年の受け入れができないような募集となっていますので、Uターン・Iターンを増やすためには若い方も含めて、中高年も対象とするよう企業に対する働きかけが必要だと思います。但馬ふるさとづくり協会でも中途採用の説明会を11月に開催する予定で、一次産業で欲しいのは20代、30代の方ですが、中高年もお願いするようなことで相談会の開催をお願いしています。中途採用できる環境が増えれば、もっとたくさん来ていただく方が増えてくると思います。

分科会長

他に無いようでしたら次に進みます。資料送付文書に記載してありましたが、皆さん各分野から選出いただいています。その分野の内容でも、それ以外でも結構ですので、日頃から豊岡市の定住人口増加に向けた内容でお考えのことはお話しいただければと思います。また、将来的にこういった取組みが必要だとお考えのことを

お話しいただければと思います。

観光の振興については、ハード面ばかりが書いてあると思います。やはり、リピーターを増やそうと思えば、人が大切だと思います。例えば、「あそこの観光地のガイドが面白い」とか、「あのおばちゃんが良い人だった」ということで、また来ようと思ったり、初めての人を連れてこようと思ってもらえるはずです。この4月からガイドをしていて、そんなことが顕著に出てきていると思います。観光での人間関係がだんだんと希薄になってきているように思えてなりません。特徴のある人とのふれあいやその人の人間性を感じることが訪れた人の気持ちの中でとても大切なものになると思います。

出石も蕎麦屋が44軒ありますが、行列がすごくできる店とそうでない店との差別化ができています。行列のできない店主に私は、「お客さんは一度来て、気持ちよかったらまた来る。行列のできる店は徹底的におもてなしをされているので良い印象を持って帰られると思うんで、また来店されることにつながっている。」と言っています。お店の味もですが、おもてなしが良いということで行列につながってくると思います。従業員を含めて、気持ちの良いおもてなしができる店づくりが必要だと思います。逆に、一人でも頑固な店主がいる店も人気があります。

但馬広域が観光ガイドの研修会を年に1回されており、その取組みが必要だと思います。京都府もセミナーを開催していて、大学の先生が理論を話されますが、それに加えて現場の話も必要なので、旅行会社やバス会社を講師にプログラムを組み立てられていますので、参加者も実情をリアルに把握でき、色々なノウハウを取得できるのだと思います。人づくりの作戦を考えていかないと他の観光地に負けてしまうと思います。やはり、但馬の強みは人間性だと思います。

(委員)

移住定住のイベントをしても人間関係ができていてと集中的に人が集まってきていると思います。先日、大阪で移住セミナーをしましたが、京都府のスタッフの方は関係性を築かれて、大変慣れておられましたので、人がたくさん集まっています。

分科会長

豊岡市は特にインバウンドが目立っていますが、今は逆効果になってしまっています。城崎もインバウンドのお客さんは増えていますが、日本人が減ってきています。インバウンドを積極的にやると日本人が行かなくなってくることがあります。湯布院や高山がそうですが、インバウンドで外国の方が多く来られると日本人は行きたくないとなってしまうと思います。やっぱり、日本人をターゲットにすべきだと思います。外向きにはインバウンドは格好良いと思いますが、そうではないと思います。観光だけに限りませんが、地についた政策が必要だと思います。

(委員)

人が大切だというお話でしたが、本当にその通りだと思います。観光地に行って、地元の人と話ができたりするとすごくお得感があります。

分科会長

やはり、まちづくりは人だと思います。「カネじゃない、モノじゃない」と思います。そのあたりが合併してから薄まってきているような感じがします。事業費の数字だけでは見えてこない大切な部分もたくさんあると思います。

(委員)

労働人口が減ってきていて、バス事業も運転手が確保できなくなってきています。これまでは募集をすればある程度は充足できていましたが、年間10~20人を

採用するとなりますと大変厳しいです。だんだんと定年で退職される方も増えてきますので、今では乗務員であれば平均年齢が50代近くになっています。定年は60歳としていて、毎年、退職される方がありますが、なかなか補充ができていません。若い人にどう残ってもらうかが大切であって、そこが私たちも苦勞しているところです。都会に住むほうが多い年代と但馬に住んでみようかといった人が多い年代と波があるような感じがしています。若者の流出率といったものは何かデータがあるのでしょうか。学生がどのくらい都会に出て、どのくらい都会から帰ってくるのかといったデータはつかんでおられるのでしょうか。

分科会長

高校で就職希望者が何人、大学に行くのが何人、但馬に残ったのが何人といったデータは各学校で持っているのです、その積み上げで出るはずですよ。

事務局

公表できるかどうか分かりませんが、担当課で把握しているはずですよ。

(委員)

自動車整備の整備士も人気がありません。今は車自体に興味を持っていないで、「都会に出るので車はいらない」、「自動車免許をとらなくても良い」といった考えが増えてきているようです。最近では、運転手確保のため高校生を雇い入れて、大型二種免許が取れるまでの3年間は別の部署で勤務させて、取得後に運転手になってもらうという会社もあります。

分科会長

但馬全体での募集ということで運転手が入ってきたら、全但バスに対して自治体から助成するといった方法も大切だと思います。

(委員)

全国的に人材確保が難しく、都会では民間と公営バスとの間での運転手の取り合いになっています。

(委員)

保育士さんになる方も少ないと聞きます。

(委員)

資格を持った方はたくさんおられると思います。ただ、給与水準が低いのと勤務条件が合わないのと、してみようと思う方が少ないです。同じ市にあるこども園でも保育園の年代の担当と幼稚園の年代の担当とは、仕事の大変さが違うと聞きます。やはり、保育園の年代は長く勤務されないといったことがあるようです。

(委員)

夜の7時ごろまで預かっておられて、家に帰ってからでも仕事があると聞きます。特に、子育て世代の保育士さんは自分の家にも子どもがおられるので大変だと思います。

(委員)

今は0歳からでも保育園に預けるようになっていて、お母さんが働きに出るといった家庭が多くなっています。子どもは1歳になるまではおっぱいをもらったり、おむつをかえてくれる人が母親であって、実際にそうしてくれた人とは別にマインドコントロールの中で家で面倒を見てくれる人がお母さんとして認識しています。現在は、社会全体で助け合う仕組みができています。母の愛情は受けているんですけど、本当の育児をしてもらっていない子どもが20年～30年経ったときに親（父や母）になるんです。そうなった場合、どんな子どもを育てるのだろうかと不安に思います。人と人の部分で切れないなと思うことがあります。保育士がいないということで、誰でも良いのでといった募集をしている時間帯もあるようですが、質の部分でどうなのだろうか疑問に思います。

子育てセンターも旧市町単位で設置されていますが、少子化ですので対象者は少ないです。城崎、竹野、但東は非常に少ないですけど、行政は数字によって、予算

を組まれたり、色々な判断をされます。竹野は併設ではなく、センターだけ建っていますので、ハコモノは修繕が必要となってきます。でも、たとえ何組であっても子育て中の親子はセンターへやって来られます。「豊岡市の市街地が中心ではなくて、どこであっても本当に末端まで行き届いています」と言えることができると願っています。色々な家庭があって、祖父母と同居されているところもあれば、祖父母と子どもがセンターにきて、親は働きに出られているところもあります。手厚いサービスをされていると思われていますが、30分～40分かけて午前9時半からの事業に参加しようと思えば、大変な苦勞をおかけしていると思います。そして、少子化が段々とネックになってきていると思います。お母さんが働きに出ていることもあるので、色々な意味でアンバランスになってきているように感じます。そこを行政としてどうしていくのが難しいと思います。私が保育園に勤めていた頃の子どもたちがちょうど今、親になる年代です。お母さんも子どもも大変な状況でやってるんだなあと思います。子どもが喜ぶほど、もっとしてあげたいと保育士さんも頑張られるのだと思います。そして、ぜひ、30代、40代の若い世代が帰ってきて仕事があるようになればと思っています。

分科会長

合併して最近思うのが、イベントの廃止が多くなってきたように思います。「福祉まつり」は旧豊岡市以外はこの旧町でもやってきたイベントですが、社協が合併して職員が少なくなったことなどの理由によって来年度から廃止という決定がなされました。出石で実行委員長をしていて、当日の開催までの過程が大切だということが分かりました。大石りく祭も来年から中止になりますし、各地で実施してきた祭が消えてしまわないかと危惧しています。人と人をつなぐ部分もあるので、やっていく価値はあると思います。何かいろいろな理由で廃止されようとしていて、これが市のためになるのかなと思います。お金やモノだけでなく、やはり人づくりが大切だと思います。

委員のみなさんから色々なご意見をいただき、ありがとうございました。これで協議・意見交換を終了とさせていただきます。